

目 次

I	昭和55年度のあゆみ	1
II	管理運営概要	
	1. 組 織	4
	2. 予 算	5
	3. 入館状況	6
III	事業概要	
	1. 常 設 展	
	(1) 刀剣コーナー	7
	2. 移 動 展	7
	3. 貸しギャラリー	8
	4. 特 別 展	
	(1) 宝暦治水と薩摩藩	9
	(2) 化石の世界	11
	(3) 蓑虫山人	13
	5. 資 料 紹 介	
	(1) よみがえる葉津文楽	15
	(2) 百年公園の動植物	16
	6. 資料調査収集活動	
	(1) 人文部門	17
	(2) 自然部門	19
	7. 教育普及活動	20

I 昭和55年度のあゆみ

開館5年目を迎え、開館以来、鋭意博物館の基礎づくりに貢献された松尾克美館長が退職され、後任として陶芸家としても著名な大橋桃之輔多治見工業高等学校長を三代目館長として迎えた。

新設の博物館は、5年目ぐらいがひとつの節目といわれる。当博物館も郷土の唯一の総合博物館として、交通不便の立地条件を克服し、真に生涯教育の場となるべく地道な努力を積みかさねて来たが、開館4年目の54年度は、入館者数も10万人を割り、次第に下降線をたどってきた。昭和55年度は、いわば態勢挽回の年であった。ひとつの節目をなんとか克服し、新しい展望の上に立ちたい、そういう願望の年であった。

春4月の特別展「宝暦治水と薩摩藩」は開館5周年記念特別展として、ほぼ1年の準備をかさね、姉妹県鹿児島県の物心両面にわたる協力と、岐阜日日新聞社、岐阜放送の全面的後援を得て開催され、入館者も過去最高の2万7千人を記録した。期間中、島津家はじめ遠路鹿児島県からの来訪者も多く、姉妹県との文化交流・親交にも貢献した。

夏の特別展「化石の世界」は、昭和52年開催の特別展「郷土の化石」の展開ともいべきもので、国内に限らず広く世界各地から産出した化石標本約260点を展示、特に化石の本性や人間生活とのかかわりなど多角的に化石の世界をとらえた。なお、开展直前、上宝村福地で発見された世界最古の化石を筑波大学の好意で展示、大きな話題となった。

秋の特別展は、江戸時代末期に安八郡結村(当時)に生れ漂泊の画人「蓑虫山人」の作品、遺物など約80点を展示、折しも没後80年ということで反響を呼び、蓑虫山人再評価が話題となった。

資料紹介では、加茂郡七宗町神淵の春日神社に江戸時代から伝わり、この度発見寄託された「葉津文楽」の人形首、衣装等約100点を展示、ひなびた農村に伝わるすぐれた芸術作品が注目をあびた。

また、3月には、「百年公園の動植物」として百年公園内の四季を通じての植物、昆虫、鳥類標本1,200点を展示、身近な生物への関心を高めた。

さらに、6月には美濃陶芸協会、中日新聞社主催の「美濃陶芸展」を当館で開催、荒川豊蔵、加

藤幸兵衛はじめ、本県現代陶芸作家の最近作70点を紹介した。

教育普及活動では、前年度に引き続き、特別展に関連した「講演会」「自然教室」「自然観察会」「標本の名前を調べる会」「体験学習会」等を開催。

また、54年11月開設した「視覚障害者コーナー」の触察資料を、初めて高山市図書館で移動展示、飛驒地方の視覚障害者に喜ばれた。

なお、56年1月より1階ロビーに自然分野がスタディー・コーナーを開設、毎月テーマをかえ、季節感のある小展示を開始、人文分野も2月から2階ロビーを利用して、季節に応じた展示を開始した。

こうして、全館をあげた努力と創意工夫により55年度は、入館者も10万5千人余を数え、54年度はおろか、53年度もオーバーするという結果を生み、新たな展望が開けてきた。

日 誌 抄

4・1 人事異動

退 職	館 長	松尾 克美
	業 務 嘱 託 員	山本佳代子
転 出	次 長	杉本 稔
	主任主査兼庶務係長	丹羽 秀之
	主 事	松井 真善
	技 師	玉田 吉高
	自 然 係 長	野村 豊
	学 芸 主 事	馬淵 隆
転 入	館 長	大橋桃之輔
	次 長	丹羽 遙
	主任主査兼庶務係長	村地 昭義
	主 事	仙石 勉
	技 術 員	高島 利次
	主任学芸主事兼自然係長	山田 康夫
	学 芸 主 事	二村 智
	業 務 嘱 託 員	大西 早苗
昇 任	主任学芸主事兼人文係長	宮川 貞郎
解兼職	学 芸 主 事	平光 明彦
兼 職	学 芸 主 事	横山 泰

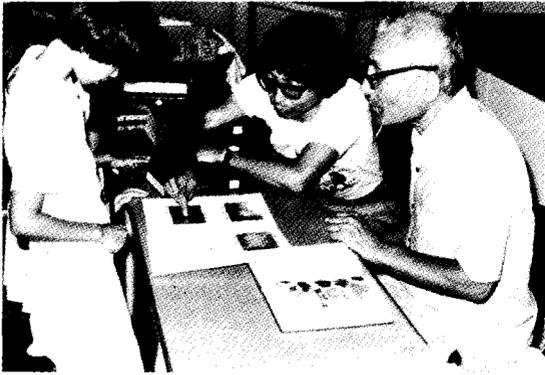
4・1 「博物館だより」第11号発行

4 前博物館技師 森一二三氏逝去



- 4・15 虎溪山三島管長写経受納式
- 21 山田大作画「淡墨桜」屏風受納式
- 24 特別展「宝暦治水と薩摩藩」開幕
鹿児島県出納長、岐阜県副知事、教育長、岐阜日日新聞社社長、館長によりテープ・カット。この日、岐阜県知事、野田切一氏、鹿児島県伊集院町町長、国分市議会議長など、関係者一行の来館多し。
- 25 鹿児島県義士顕彰会一行来館
- 5・5 入館者50万人突破。記念品贈呈。
「宝暦治水と薩摩義士」講演会
- 10 鹿児島県島津興業社長酒井薫氏来館
- 13 鹿児島県明治百年記念館建設調査室坂口室長等来館
- 18 移動教室「宝暦治水史跡めぐり」
- 21 中部電力加藤会長、副社長一行来館
鹿児島県明治百年記念館建設調査室山田主幹等来館
- 22 県事務所長会一行来館
- 5・23 東海四県土木管理課長一行来館
- 28 大久保利泰氏夫妻来館
- 6・1 岐阜県博物館協会総会
- 4 博物館協議会開催
- 6 森県議会議長来館
- 8 島津矩久(島津家次男)、鹿島晃久(同三男)両氏、有馬尚古集成館長等来館
特別展「宝暦治水と薩摩藩」閉幕
- 13 東海四県監査委員会事務局一行来館
- 18 「美濃陶芸展」(中日新聞社主催)開幕
- 23 日本博物館協会館長会議に館長出席

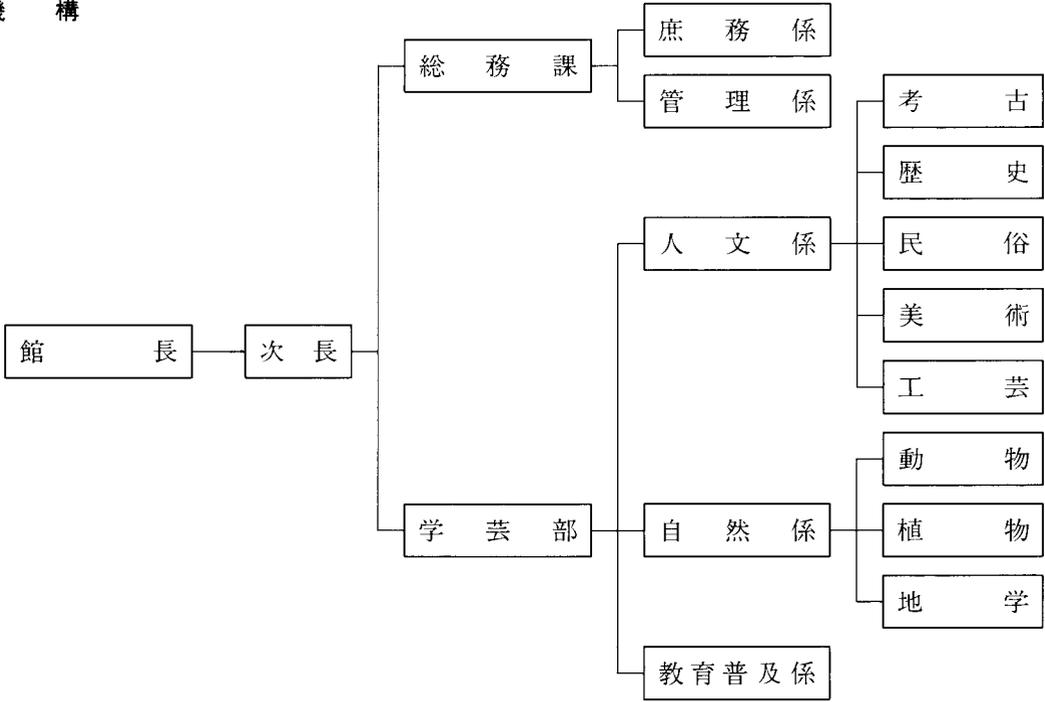
- 25 新日本製鉄石井顧問等来館
- 26 東海地区博物館連絡協議会総会(神奈川県博)に村地庶務係長出席
- 27 触察資料高山移動展開幕(高山市立図書館)
- 28 東海北陸地区中学校長会一行来館
- 29 「美濃陶芸展」閉幕
- 7・1 「館報」第3号発行
「博物館だより」第12号発行
岐阜県博物館協会事務引継ぎ
- 3 高山移動展開幕
- 9 来日ブラジル青年一行来館
- 12 東海北陸ブロック統計課長一行来館
- 16 全国農業試験所長一行来館
- 18 アメリカ教員視察団一行来館
- 22 特別展「化石の世界」開幕
- 25 鹿児島県明治百年記念館建設調査室一行来館
- 27 自然観察会「百年公園内の虫」開催
- 30 文化庁文化普及課木田専門員来館
- 8・1 身障者誘導用点字ブロック、標識等を正面玄関階段に設置
- 1 広島県文化財保護審議会長一行来館
- 4 実習生2名受入れ
- 5 西ドイツ青年団一行来館
- 8 中華民国教師代表団一行来館
- 12 鹿児島県教育長来館
- 14 鹿児島県親善スポーツ団一行来館
- 16 落雷により長時間停電
- 17 講演会「化石と私たちの生活」開催
- 21 総理府統計局調査部一行来館



- 8・24 「標本の名前を調べる会」開催
- 9・6 東海四県高校生徒指導連絡協議会一行来館
- 7 特別展「化石の世界」閉幕
- 28 自然教室「飛騨片麻岩は日本列島の基盤か」開催
- 29 東海三県交流研究会（伊勢市）に鈴木教育普及係長出席
- 30 業務嘱託員桑原栄子退職
- 10・1 業務嘱託員長谷川恵子新任
- 7 全国博物館大会（熊本市）に西村総務課長、小野木学芸主事出席
- 17 特別展「蓑虫山人」開幕
- 19 体験学習会「手まり作り」開催
- 24 宮崎県文教保健常任委員会一行来館
- 25 鹿児島県土木部長来館
- 31 中日新聞社主催「最古の化石が語る－日本列島4億8千万年展」に「オオツノシカ」出品（名鉄百貨店）
- 11・9 体験学習会「たこ作り」開催
- 12 富山県議会議員一行来館
- 14 岐阜県博物館協会第3回セミナーを当館で開催（「蓑虫山人」について）知事特別展を観覧
- 15 杉本健吉画伯・鷺見房子氏来館
- 16 特別展「蓑虫山人」閉幕
- 18 広島県議会文教委員一行来館
- 20 千葉県松戸市社会教育委員一行来館
- 21 東南アジア青年一行来館
- 22 福井県武生市教育委員一行来館
- 12・2 博物館職員講習（20日まで）に横山学芸主事出席
- 12 国土庁都市圏整備局専門調査官来館
- 16 資料紹介「よみがえる葉津文楽展」開催（56年2月1日まで）七宗町教育委員会一行来館 警察庁警備局外事課長一行来館
- 1・11 通商産業省工業技術院地質調査所山田地質第一課長来館
- 20 宮崎市長、建設部長来館 「博物館だより」第13号発行
- 1・27 嘱託員研修開始（3月6日まで延19回）
- 29 博物館消防訓練実施
- 2・1 人形劇団ブーク川尻代表他来館
- 13 寄託資料「小原鉄心筆論政十二首」屏風受納式
- 14 最高検察庁江幡次席検事、名古屋高等検察庁長島検事長等一行来館
- 18 中華人民共和国杭州市文化交流代表团（郭仲選团长）一行来館
- 25 博物館、図書館、歴史資料館三館連絡会議（県立図書館）
- 3・1 資料紹介「百年公園の動植物」開催（3月31日まで）
- 4 東海財務局長一行来館
- 8 自然教室「御岳山の植物」開催
- 12 福井県土木部営繕課一行来館
- 18 公営企業金融公庫内山理事等来館
- 28 日本博物館協会評議員会に館長出席
- 31 「岐阜県博物館調査研究報告書」第2号発行

II 管理運営概要

1. 組織機構



(2) 職員

職名	氏名	職名	氏名
館長	大橋 桃之輔	○ 学芸部	
次長	丹羽 遙	学芸部長	吉田 藤太夫
○ 総務課		主任学芸主事兼人文係長	宮川 貞一郎
課長	西村 義郎	学芸主事	二村 智一
主任主査兼庶務係長	村地 昭義	"	水野 一満
主事	宮西 武彦	"	堀部 泰夫
"	久保 友子	"	横山 康夫
技術員	高島 利次	主任学芸主事兼自然係長	山田 藤悖
(兼) 管理係	西村 義郎	学芸主事	安原 芳雄
主事	仙石 勉彦	"	笠野 三郎
"	古田 信彦	"	小宮 伸也
業務嘱託	岩田 節子	学芸嘱託	宮野 正太郎
"	臼井 真由美	教育普及係	鈴木 正隆
"	大野 晴美	教育主事	佐野 正溢
"	桑原 栄子	学芸嘱託	国光 溢夫
"	加藤 由紀子		
"	大西 早苗		

(3) 博物館協議会委員 (アイウエオ順)

◎印……会長 ○印……副会長

昭和56年3月31日現在

氏 名	住 所	現 職
奥 村 保	岐阜市加納鉄砲町	岐阜県公民館連合会会長
幸 脇 多 聞	岐阜市青柳町4-57	岐阜県高等学校長協会会長
坂 倉 又 吉	羽島市竹鼻町2733	千代菊(株)取締役社長
小 牧 愿	岐阜市城田町1108	岐阜県中学校長会会長
玉 田 幸 人	岐阜市萱場町中越599-11	岐阜日日新聞社専務取締役
◎土 屋 斉	大垣市荒尾町1077	(株)大垣共立銀行取締役頭取
野 村 忠 夫	稲沢市下津町東国府34	岐阜大学教育学部教授
◎林 金 雄	各務原市那加雲雀町37	大垣女子短期大学教授
深 井 重 三 郎	岐阜市鏡島西菖蒲池1621	学校法人佐々木学園理事長
和 田 三 里	岐阜市鷺山若水町1丁目	岐阜県小学校長会会長

2. 予 算

(単位千円)

区分	内 訳	年 度	昭 和 53 年 度	昭 和 54 年 度	昭 和 55 年 度
歳 入	国 庫 支 出 金		—	800	900
	博 物 館 使 用 料		10,936	8,652	11,561
	雑 入		244	165	300
	合 計		11,180	9,617	12,761
歳 出	博 物 館 運 営 費	運 営 費	21,840	22,386	22,541
		施 設 管 理 費	63,571	62,778	75,902
		博 物 館 協 会 費	209	236	260
		計	85,620	85,400	98,703
	博 物 館 事 業 費	常 設 展 示 費	10,628	23,229	16,729
特 別 展 示 費		6,000	6,000	10,000	
資 料 収 集 管 理 費		1,200	1,250	1,250	
教 育 普 及 活 動 費		850	2,100	2,300	
計		18,678	32,579	30,279	
合 計		104,298	117,979	128,982	

3. 入館状況

今年度の入館者総数は105,016人で、開館以来減少し続けていた入館者数は、増加傾向に転じた。開館日数は297日で1日平均の入館者数は353人であった。

月別の入館状況は下表のとおりであるが、5月、8月、10月、11月の4か月の間で全体の約60%を占めている。1日の入館者が最も多いのは5月3日から5月5日までの連休中であり、この3日間で6,979人を数えた。また5月5日には開館以来50

万人を突破した。

団体入館者についてみると、年間487団体、42,745人で総入館者数の約41%を占め、月別では10月が15,026人で最も多い。

更にこれを県内、県外別にみると県内が362団体、27,170人で全体の約64%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く約36%を占めた。

特別展の入館状況については、通算開催日数は108日間で64,997人、1日平均にすると601人であった。また総入館者数からみても約62%にのぼり、特別展への関心度の深さがうかがえる。

博物館入館者数

月別	小中生	高大生	一般	計	開館日数	1日平均
4月	3,547 [^]	735 [^]	4,360 [^]	8,642 [^]	26 ^日	332 [^]
5月	6,349	4,239	8,646	19,234	27	712
6月	1,284	231	4,030	5,545	25	221
7月	2,860	762	4,018	7,640	27	282
8月	4,934	544	7,416	12,894	27	477
9月	2,691	215	4,393	7,299	23	317
10月	14,829	90	4,551	19,470	26	748
11月	5,863	1,425	5,527	12,815	24	533
12月	185	69	995	1,249	22	56
1月	217	71	838	1,126	22	51
2月	833	87	1,767	2,687	23	116
3月	2,655	316	3,444	6,415	25	256
合計	46,247	8,784	49,985	105,016	297	353

特別展期間中の入館者数

特別展名	期間	小中生	高大生	一般	計
宝暦治水と薩摩藩	55.4.24~55.6.8	8,976 [^]	4,706 [^]	13,008 [^]	26,690 [^]
化石の世界	55.7.22~55.9.7	7,039	846	10,390	18,275
蓑虫山人	55.10.17~55.11.16	13,223	1,046	5,763	20,032
合計		29,238	6,598	29,161	64,997

III 事 業 概 要

1. 常 設 展

(1) 刀剣コーナー

第 一 期	第 二 期	第 三 期	第 四 期
刀 無銘伝志津	刀 無銘伝大和志津	刀 無銘伝志津	刀 銘助成
刀 無銘伝直江志津	刀 無銘伝直江志津	刀 銘藩州赤坂住兼元	刀 銘武州住安儀
刀 銘和泉守兼定	槍 銘兼元	槍 銘兼元	刀 銘上総介藤原兼重
刀 銘濃州赤坂住兼元	脇指 銘信濃守大道	刀 銘国次 (民国次)	短刀 銘濃州上有知住兼長
刀 銘濃州清水住兼定	短刀 銘兼屋	脇指 銘兼房	脇指 銘肥前国河内守藤原
刀 銘薩摩臣元平	脇指 銘陸奥守藤原兼信	短刀 銘兼鶴	正宏
天明九己酉二月	脇指 銘武蔵大祿藤原忠広	脇指 銘寿命	短刀 銘関住人出羽守高植
刀 銘氏房入道作	刀 銘南部住金房兵衛尉	七難滅七福即生	脇指 銘濃州神戸住兼信
刀 銘一平安代	政次	刀 銘越中守正俊	短刀 銘丹羽守吉道
脇指 銘薩陽土奥次右衛			
門平元安			
伊藤傳右衛門藤原			
祐向庭望			
文化五戊辰年八月			
吉日之作			

2. 移 動 展

●触察資料飛驒移動展

会 期 昭と55年6月27日～7月3日

会 場 高山市立図書館視聴覚室

入 場 料 無 料

入場者数 487人 (うち視覚障害者48人)

展 示 品 考古資料17点 (打製石斧2点、弓矢一式、縄文土器8点、弥生土器3点、埴輪2点、土器文様のつけ方一式)・動物剥製標本3点 (ざる、きつね、いたち)

入場者の感想文より (原文のまま)

- たいへん良い企画です。このような展覧会をもっともっと発展させてください (視覚障害者)。
- なかなかよい企画だった。もう少し宣伝してもらえば、もっと早く来ただろう (一般)。
- 図書館に来た人にしかわからない場所なのがおしい (一般)。
- このような移動展ははじめてみましたが、点字で書いてあることをすごく喜んでいる一人です。もっともっとふやしてもらいたいと思います (一般)。
- とってもいい勉強になりました (生徒)。
- もう少し資料の量が多ければよかった。このようなもおし物をもっとひんばんにやって



- ほしい (生徒)。
- はにわや土器が見れて、おまけにさわられたのでとてもよかった。社会の勉強に役立つと思う (生徒)。
- はにわや土器が自由にさわられてとても楽しかった。先生にも教えてやりたい (児童)。
- 大昔の土器はすごくこまかい模様で、さわってみた時ざらざらしていた。くわや木を切る道具は、大昔こんなのを作って利用したんだなと思った。ほんとうにびっくりした (児童)。
- 粘土にもようをつけて土器を作るなんてしかなかった。きてよかった (児童)。
- きつねとざるがこわかった。いたちがかわいいし、おもしろい (児童)。

2. 貸しギャラリー

当館では今年度はじめて館内の展示室を外部団体主催の展覧会々場として貸した。

●第7回 美濃陶芸展

会期 昭和55年6月18日～29日
 会場 岐阜県博物館特別展示室
 主催 美濃陶芸協会・中日新聞社
 後援 岐阜県博物館・中部経済新聞社

出品目録

出品番号	作品名	出品者名
賛助出品	瀬戸黒茶 埵	荒川豊蔵
賛助出品	青瓷茶 罌	加藤幸兵衛
1	青彩花 器	大橋桃之輔
2	灰釉花 入	酒井玲子
3	織部大 皿	可児一広
4	榊目天目花 器	羽柴良一
5	灰釉大 皿	奥村松子
6	青磁飾 皿	加藤捷信
7	織部長角 皿	佐藤和次
8	赤絵角 皿	加藤賢司
9	マチョリカ釉黄色のリング	熊沢輝雄
10	L O V E	小栗正男
11	鼠志野大 皿	若尾利貞
12	鉄 鉢	加藤孝造
13	天目釉大 鉢	柴田増三
14	黄瀬戸皿 5枚	玉置保夫
15	美濃古染木蓮文 壺	吉川修身
16	鉄 釉 壺	加藤厚美
17	織部 皿	加藤摺也
18	志野 皿	水野桂
19	志野角 皿	井沢輝弘
20	織部 壺	伊村彰介
21	鉄釉平 鉢	吉川博治
22	志野化粧掛花 器	林正太郎
23	志野茶 碗	鈴木蔵
24	油滴天目蓋 物	加藤時蔵
25	流釉花 入	佐藤牧男
26	緑彩梅花皮	安藤百利
27	鉄釉花 瓶	近田精治
28	灰釉四方 皿	堀 一 郎

出品番号	作品名	出品者名
29	釉裏紅鳥文花 器	加藤道博
30	碧 容	小林文一
31	黄瀬戸水 指	岸本謙仁
32	壺 「細流」	青山鉄郎
33	黄瀬戸組鉢(5ヶ)	大島久興
34	鳴海織戸 皿	永江港史
35	鼠志野 壺	若尾昌宏
36	染付祥瑞文台 盤	青山双男
37	染付食 籠	青山礼三
38	鼠志野茶 碗	水野沢三
39	鳴海織部正角 鉢	山田義孝
40	火嚮花 入	林 延由男
41	黄瀬戸 壺	林 虎男
42	鉄 釉 鉢	戸松万典
43	志野花 器	河合清光
44	鉄 釉 「彩容」	丹羽重彦
45	志野大 鉢	河合竹彦
46	絵高麗鶴三目花 瓶	中島正雄
47	壺	田原兼治
48	黄瀬戸薊文 壺	水野敬子
49	灰 釉 壺	山田勢児
50	総織部鮫角 鉢	東 好昭
51	粉青磁 鉢	林隆一郎
52	雲	加藤洋二
53	墨彩菱 器	加藤裕英
54	白磁丸唐草 皿	塚本快示
55	白 積	安藤博允
56	灰釉水 指	林孝太郎
57	雲 錦 鉢	荒川武夫
58	鼠志野大 皿	高木典利
59	星天目 蓋	加藤 仁
60	美濃伊賀組 皿	滝口喜兵衛
61	黒織部茶 碗	佐々木正利
62	自然釉水 指	松山祐利
63	占美濃線文平 皿	安藤日出武
64	織部角 皿	加藤光男
65	志野茶 碗	樋口力三
66	志野茶 碗	美和隆司
67	織部波千鳥文長 皿	加藤卓男
68	青釉金彩人面花生	水野二郎
69	灰釉角 皿	水野二郎
70	志野茶 罌	久野 勝生

2. 特別展

(1) 開館5周年記念特別展

宝暦治水と薩摩藩

4月27日～6月8日

本展は、当館が開館して以来5周年を迎えるに当り、本県と特にかかわりの深い鹿児島県の歴史文化を紹介し、当館の歩みの一道程を記すものとして企画されたものである。

本県と鹿児島県とは、薩摩義士による宝暦治水工事を機縁として昭和46年姉妹県の盟約を締結し、以来両県の親交は一層深められつつある。

ところで、本県は「飛山濃水」の地とも呼ばれ、美濃を流れる木曾・長良・揖斐の三大川は肥沃な濃尾平野を形成し、その流域に豊かな歴史を育てる力となってきたが、反面三大川は幾度も計りしれない災害をもたらしてきた。特に三大川が寄り集まる美濃西南部の低湿地ではその被害は甚だしく、この地域の人々は多年水との斗いに終始してきた。こうした状況に対し、幕府が三大川にまたがる抜本的治水対策実施の幕命を薩摩藩に下したのが、「宝暦治水」である。

宝暦3年(1753)師走、御手伝普請の幕命を受けた薩摩藩は、家老平田靱負を総奉行とする947名にのぼる薩摩隼人を美濃に送り、厳しい幕吏の監督の下に約40万両にのぼる工事費と80余人の犠牲者とをともなう壮烈な治水工事を展開し、その難事業を完遂したことは広く知られるところである。

ところで薩摩藩は、武士が領民の3分の1を占め、鎌倉期以来続く領主島津氏を中心に領主・領民が一体となった精神的風土を醸成し、質実剛健な「薩摩士風」を築いてきた国である。また他方地理的には本土の最南端に位置し、早くから「南の門戸」としての役割を果たし、海外の先進文化に対して敏捷な対応性と開明性を培ってきた国でもある。こうした薩摩の精神的風土は相互に融合し、苦難の時代を耐えかつ人を鍛える力となって幕末・維新时期にかけて日本史をゆるがす力へと結実し、開花していった。

以上、こうした薩摩の歴史的背景をもとに、島津氏入部以来維新时期に至る薩摩の歴史を「宝暦治水」の偉業を含めて通観し、薩摩の歴史を貫く力

が養われ、鍛えられ、発揮された過程への理解を本展の基調とした。従って展示は、その基調に従い、具体的には下記構成により実施した。

I 力を蓄え伸びる薩摩

- (1) 島津氏入部と広がる薩摩
- (2) 鉄砲とキリスト教の伝来
- (3) 朝鮮出兵と薩摩焼のおこり

II 薩摩の士風と宝暦治水

- (4) チェスト行け関ヶ原
- (5) 郷中教育と薩藩士風
- (6) 宝暦治水

III 幕末・維新に活躍する薩摩

- (7) 力をつけた藩政改革
- (8) 島津斉彬と集成館事業
- (9) 西南雄藩としての活躍

IV 島津家の遺品

なお、本展開催期間中には、岐阜県薩摩義士顕彰会副会長・伊藤薫氏(海津町長)の特別講演、及び「宝暦治水工事史跡めぐり」の2行事を併せ行い、共に熱心な多数の参加者を得ることができた。

ともかくも、本展開催までには資料所蔵、管理者をはじめとして実に多くの方々との温い協力を得ることができた。殊に姉妹県鹿児島からは、全面的協力を仰ぐことができ、かつとりわけ鹿児島県明治百年記念館建設調査室及び尚古集成館の方々には多大な御協力、御指導を得ることができた。実に本展の開催は、これらの方々との全面的協力によって、初めて可能となったものである。

本企画は当館の歩みの一節となり、かつ姉妹県相互の親交の一助となることを願うものであったが、本展期間中によせられた27,000余名を越す来館者の強い関心を思う時、その一端を満たし得た感を深くするものである。



出 品 目 録

番号	資料名	所蔵・管理者	番号	資料名	所蔵・管理者	番号	資料名	所蔵・管理者
①	島津氏入部と広がる薩摩		45	蒼海記(全14冊)	名古屋大学附属図書館	91	西郷隆盛肖像	鹿児島市立美術館
1	島津忠久下司職補任状	島津基之	46	宝曆治水(薩摩義士木曾川)	尚古集成館	92	西郷吉之助賞典禄下賜令	鹿児島県
2	島津忠久画像(写)	尚古集成館		治水千本松原絵巻)左洲画		93	西郷隆盛佩用サーベル	
3	島津久豊画像	"	47	平田靱負佩刀	鹿児島県	94	西郷隆盛辞職願	"
4	島津貴久寄進色々威胴丸	鹿児島神宮(重文)	48	平田靱負像	海蔵寺(桑名市)	95	別府晋介所持西郷介錯の刀	坂元正典
②	鉄砲とキリスト教の伝来		49	一札之事	"	96	西郷隆盛遺墨	鹿児島市立美術館
5	火繩銃	鹿児島県	50	内藤十左衛門一件留ノ覚	名古屋大学附属図書館	97	西郷隆盛画武者絵	鹿児島県
6	"	"	51	大橋川洗堰絵図	鹿児島県立図書館	98	西郷隆盛所持金時計	野上堅蔵
7	"	"	52	"	岐阜県歴史資料館	99	西郷隆盛手作りの草履	鹿児島市立美術館
8	火繩改良銃	井上保	53	油嶋嶮違堰絵図	長谷川千代子	100	大久保利通肖像	鹿児島県
9	火繩銃	某氏	54	焼酎徳利	海蔵寺(桑名市)	101	大久保利通胸像	"
10	鉄砲記	鹿児島県	55	薩摩義士所持の矢立	尚古集成館	102	大久保利通遺墨	
11	聖フランシスコ・ザビエル像	神戸市立南蛮美術館	56	水行奉行高木新兵衛所持扇子	一柳順五	103	大久保利通所用勲章	岩倉公田蹟保存会
③	朝鮮出兵と薩摩焼のおこり		57	水行奉行高木家伝来土俵空徳	岐阜県博物館	104	大久保利通使用基盤・基石	鹿児島県
12	文祿・慶長役解風	尚古集成館	⑦	力をつけた藩政改革		105	"硯・墨	大久保利謙
13	黒釉牡丹唐草文半胴	鹿児島県	58	調所広郷木像	鹿児島県	106	"水指	"
14	黒釉貼付梅花文甘酒半胴	鹿児島市立美術館	59	調所広郷使用の算盤	尚古集成館	107	"筆洗	"
15	黒蛇蛸釉茶碗	鹿児島県	60	鹿児島城下絵図	鹿児島市立美術館	108	"文箱	"
16	白蛇蛸釉茶碗	"	⑧	島津斉彬と集館事業		109	"煙管	"
17	金襴手茶碗	"	61	島津重豪画像	島津忠承	110	"宿泊札	"
18	御判手茶碗	尚古集成館	62	島津重豪作樽時計	尚古集成館	⑩	島津家の遺品	
19	金襴手茶碗	鹿児島県	63	島津重豪ローマ字文鶴龜	"	111	籠(島津美子興入に使用)	某氏
20	錦手茶碗	"	64	島津重豪編鳥名便覧	"	112	梨子地桐十字紋散糸巻大刀拵	鹿児島県
21	黒釉筒形花生	"	65	島津斉彬肖像	名越時秀	113	鞍	島津忠承
22	鉛釉耳付花生	"	66	斉彬自写ケオレオタイプ写真	尚古集成館	114	鎧	"
23	三彩釉からから	"	67	島津斉彬使用煙草盆	"	115	書見台	"
24	錦手角形酒器	"	68	島津斉彬所用陣笠	"	116	成形図説	尚古集成館
25	金襴手菊唐草文水指	尚古集成館	69	島津斉彬ローマ字日記	"	117	薩摩琵琶	"
④	チェスト行け関ヶ原		70	オランダ語発音書	"	118	小鼓	島津忠承
26	島津義弘画像	尚古集成館	71	島津斉彬使用電信機	"	119	香罏	"
27	島津義弘関ヶ原合戦感状	鹿児島県	72	集成館製造和欧文活字	"	120	手箱	"
28	関ヶ原合戦屏風	"	73	輸出用醬油瓶	"	121	広蓋	"
⑤	郷中教育と薩藩士風		74	薩摩切子蓋付深鉢	島津忠承	122	飯椀	"
29	島津日新斎いろは歌	尚古集成館	75	"蓋付つば	尚古集成館	123	膳	尚古集成館
30	太刀無銘(伝波平)	鹿児島県	76	"深皿	鹿児島市立美術館	124	挾箱	島津忠承
31	脇差銘主水正藤原正清	"	77	"	"	125	"	尚古集成館
32	刀銘薩藩臣奥元平	"	78	"小皿	"	126	五本針置時計	島津忠承
33	鐔釣鐘透鐔肥前守重位	東郷重政	79	"茶碗	谷口午二	127	羅針盤	"
34	鐔木瓜銘天正二十年五月重位	"	80	"小皿	尚古集成館	128	日時計	"
35	木刀(紙摺り鐔)	"	81	"	"	129	天球儀	"
36	自顕流目録	"	82	"皿	"	130	薩摩・琉球国勲章	野上堅蔵
37	示現流目録	"	⑨	西南雄藩としての活躍		131	印籠	島津忠承
38	示現流印鑑(3点)	"	83	島津久光肖像	尚古集成館	132	"	"
39	松方正義起請文	"	84	生麦事件届書	"	133	"	"
⑥	宝暦治水		85	薩英戦争絵巻	"	134	"	"
40	宝暦治水碑拓本		86	弥助砲	"	135	"	"
41	薩摩尾州川通村々領主地頭色分絵図	岐阜県歴史資料館	87	英艦アームストロング砲弾	"	136	"	"
42	普請願書	名古屋大学附属図書館	88	薩軍砲弾	"	137	"	"
43	御手伝普請幕府命令書	東京大学史料編纂所	89	討幕の密勅	鹿児島県	138	"	"
44	平田靱負治水工事完成報告書		90	討幕の密勅書	岩倉公田蹟保存会	139	"	"

(2) 化石の世界

7月22日～9月7日

昭和52年度に「郷土の化石」と題した特別展を開催し、岐阜県産のすぐれた化石標本を一堂に集めて紹介し、好評を博した。今回は構想を一新して次のような内容で開催した。



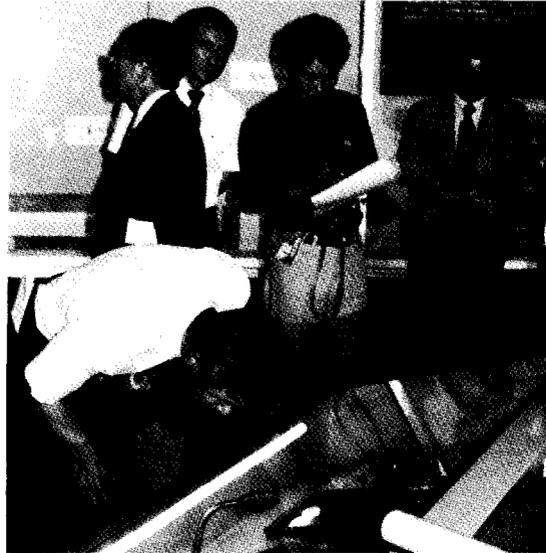
主旨 化石は生物が石にかわったものだと思っている人は多いが、石化しているか否かにかかわらず、過去の地球上に存在した生物体とその生活の跡をすべて含むものであること、またそれらの化石が単なる好事家の弄玩物でなく、地下資源の開発をはじめ人間生活とも密着して重要な役目をもつことはよく知られていない。



そこでこの機会に近辺の化石コレクターをはじめ所々に点在する世界各地から産出したすぐれた化石標本により、化石の本性から生活との関連などについて正しい理解を得られることを画した。

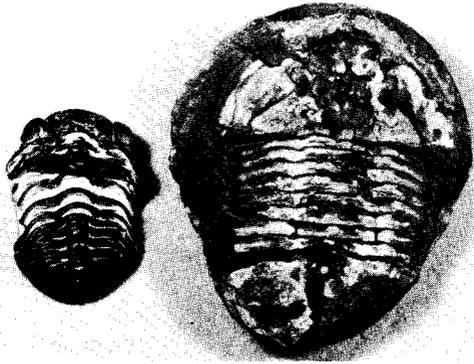
展示構成

1. 化石とは何か：遺体・置換・生痕・化石でない化石など
2. いろいろな化石：超微化石から大型化石へ
3. 化石の役割：地層の時代を決める時計、地下資源をさぐるなど
4. 三葉虫の世界：古生代前半の世界に大繁栄したこの仲間のおもなもの
5. アンモナイトの世界：中生代を通じて世界の海にひろがったもの各種
6. 魚の世界：現生の魚の先祖にあたる各種の魚の化石を世界各地から集める
7. ゾウの世界：現生のゾウに至るまでを歯、牙、頭骨などの化石によってたどる
8. 生きている化石：現在ほそぼそと生き残っている動・植物の例示
9. 化石からみた岐阜県の特徴



出品資料一覧

- | | | |
|----------------|-------|-----|
| 貝形虫化石〔オルドビス紀〕 | 上宝村福地 | 1点 |
| プロバクトロサウルス(複製) | モンゴル | 1点 |
| スクトサウルス(複製) | 中央アジア | 1点 |
| 恐竜の大腿骨・椎骨 | 北アメリカ | 各1点 |



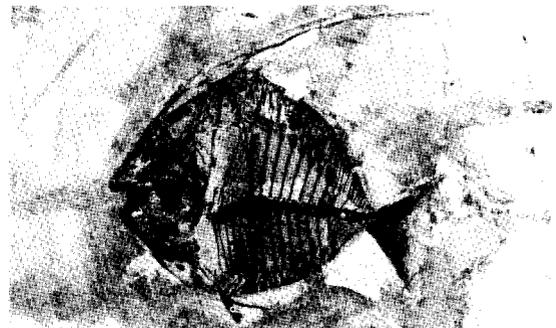
三葉虫	日・欧・米	32点
アンモナイト類	日・亜・欧	34点
マンモスの下アゴ・毛など	オランダ	3点
クジラの脊椎骨	北海道	1点
三趾馬の足化石〔第三紀〕	中央アジア	1式
サイの頭骨〔第三紀〕	北アメリカ	1点
ホラアナグマの頭骨〔第四紀〕	フランス	1式
魚類化石	日・欧・米	24点
マストドンゾウ頭骨	北アメリカ	1点
ウミユリ〔ペルム紀〕	日本・欧州	3点
ワニの頭骨		1点
クサリサンゴ〔シルル紀〕	九州	1点
シダ植物化石〔白亜紀〕	石川県	10点
ウミサソリ〔デボン紀〕		1点
筆石〔オルドビス紀〕	ドイツ	1点
カエルの化石〔第三紀〕	ドイツ	1点
オウムガイ〔ペルム紀〕	根尾村	4点
カブトガニ化石	ドイツ	2点
四射サンゴ〔デボン紀〕	上宝村	2点
エビの化石〔白亜紀〕	北海道	1点
パラステゴドンゾウ〔第四紀〕	上宝村	1点

イチョウ〔白亜紀〕	山口県	3点
ナウマンゾウの頭骨・臼歯など	千葉県	3点
ハチノスサンゴ〔デボン紀〕	福井県	1点
糞石〔第三紀〕	ドイツ	1点
ピカリア〔第三紀〕	瑞浪市	6点
鳥の足跡〔第三紀〕	北アメリカ	1点
恐竜の足跡〔三疊紀〕	ドイツ	1点
直角石〔オルドビス紀〕	北ヨーロッパ	1点
コレニア〔先カンブリア代〕	中国	1点
メソサウルス〔ペルム紀〕	ブラジル	1点
ライオンの化石〔第三紀〕	北アメリカ	1点
ブロントプスの歯〔第三紀〕	北アメリカ	1点
シカマイア〔ペルム紀〕	根尾村	1点
二枚貝化石	静岡県	1点



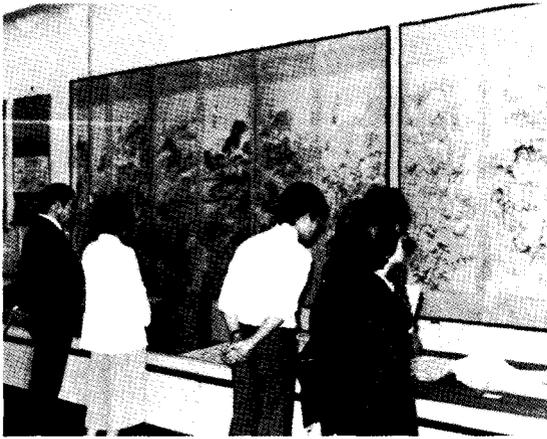
利用状況

上宝村福地から日本最古の化石が発見された直後のことで一般に関心が高まっていることもあってか入館者総数19,000名を越える盛況であった。この特別展によせて開催された講演会「化石と私たちの生活」も県外からの参加者を含めて満員、長らく岐阜県の化石を研究対象にしてこられた京都大学亀井節夫教授の明快平易な話にひきこまれ、終了後も多くの質問が出された。



(3) 蓑虫山人＝旅と絵で綴った漂泊の生涯＝

10月17日～11月16日



蓑虫とは、天保7年(1836)現在の安八郡安八町東結に生まれた土岐源吾の雅号である。

彼は14歳のとき家を離れ旅に出た。旅には簡単な野営具をつくり、これを笈として持ち歩いた。蓑虫の雅号はこの野営具を持ち歩くことから由来したものと思われる。

彼が本命とした絵画は、絵日記と称する膨大な画帳、それから旅先きで揮毫した山水画の数々である。

彼は長崎で南画・山水画の基本を身につけ、その後日本各地をくまなく訪ねた旅の中で、次第に独自の画法を体得し、自然の美を淡い青藍と代赭で彩っていった。当初の絵は稚拙なものもあったが、晩年には、自己の存在を自然の中に見つめた豊かな芸術性を表現している。

漂泊の旅のかたわら、彼は土器・石器など考古遺物を集めた。若いころからの彼の夢は、美濃に「六十六庵」と号する資料館を建設し、そこに全国から集めた古器物を陳列することであった。

六十六庵の建設は、濃尾震災で美濃地方の被害が甚大であったこと、蓑虫の芸術を理解する出資者があらわれなかったことなどもあって、彼の終生の願いもついに実現できなかった。しかし、その先進の気概は高く評価されている。

50年の漂泊の旅で、蓑虫の行動は奇人とか異色の画人とか呼ばれている。しかし、その生涯は自然を愛し自然を綴った蓑虫山人の生きた世界がさんぜんとして輝いている。

今回の特別展は、蓑虫山人没後80年目にあたる。これを記念し、美濃尾張にのこる蓑虫の絵や考古品を一堂にあつめ、漂泊の雅人蓑虫の再評価を期して紹介することとした。

展示構成は、4部門にコーナーを分け、展示資料約120点をわかりやすく解説した。まず、(1)「西国から東国への漂泊」で、青年時代から壮年時代にかけて、熊本・長崎から青森・秋田までを写す条幅・横物12点・絵日記5冊と遺品を展示、画の推移を展観できるようにした。(2)「美濃各地の名勝を写す」では、晩年の作になる襖2点、屏風4曲条幅・横物6点と「美濃国漫遊絵日記」全3冊を公開し、芸境豊かな美濃の風景を紹介した。

(3)「六十六庵建設の夢」については、終焉の地・長母寺に保管する亀ヶ岡遺跡の縄文土器、石器、美濃山田寺跡及び厚見寺跡の軒丸瓦、長塚古墳出土合子など24点を初公開した。そして、(4)「滝を愛した蓑虫山人」では、美濃養老の滝を中心として数々の滝を構図とした条幅や横物25点を紹介、このコーナーは、会期後半に(5)「揮毫した絵のかずかず」に展示替えし、美濃で一番多く作品ののこる羽島郡笠松町円城寺地区のものを主体に、花鳥風月、達磨・大黒・七福神などの縁起物や、韓信の股くぐり、高山彦九郎皇居遙拝など、故事に由来するものなどを15点展示した。

会期中約2万名の来館者を迎え、中には愛知県をはじめ水沢市・秋田市・弘前市、関西大学考古資料室からも愛好家・研究者が訪れ好評を博した。来観者は、ゆかりが深く詩情豊かに描かれた美濃の風景をみて、まるでタイムマシーンで明治に戻ったかのように大きな感興を呼んだ。

また、この会期中、8名48点の蓑虫作品が所有者によってもたらされ、31点の新発見資料が記録された。

鉦彫円空・禅画仙厓、そして漂泊の画人蓑虫は、江戸時代美濃に生まれた異色の雅人である。その蓑虫山人評価は他の2人にくらべ、まだまだ美濃においては低い位置にある。だが、今度の特別展は、蓑虫山人に対する多くの人々の意識が高まり、まさしく文化財愛護・郷土文化発展の一助になったことと思っている。

出品目録

番号	資料名	形態	点数	番号	資料名	形態	点数
1	樹下籠席煎茶之図	条幅	1点	32	扇面養老瀑布之図	横物	1点
2	蓑虫山人画像	額	1 "	33	養老瀑布之図	条幅	1 "
3	滝見自画像	条幅	1 "	34	"	"	2 "
4	肥後五家釣橋之図	"	1 "	35	"	"	1 "
5	耶馬溪耆園窟之図	"	1 "	36	"	"	1 "
6	耶馬溪羅漢寺之図	"	1 "	37	"	"	1 "
7	筑前長谷大戸窟之図	"	1 "	38	"	"	1 "
8	備後国磐台寺之図	"	1 "	39	"	"	1 "
9	紀州那智滝之図	"	1 "	40	春夏秋冬滝山水図	"	4幅対
10	富岳瀑布之図	"	1 "	41	那智山瀑布之図	"	1点
11	利根川風景之図	横物	1 "	42	蓑虫取集考古遺物		20 "
12	西谷氏弾琴之図	"	1 "		(繩文土器)		
13	釜石石心禪寺全景之図	"	1 "		(須恵器)		
14	桃屋画会席上之図	"	1 "		(軒丸瓦)		
15	新海山是宇寺之図	"	1 "		(石器)		
16	万里春風之図	"	1 "	43	太古石器古陶図		1冊
17	諸国漫遊絵日記	"	5冊	44	滝見観音像之図	条幅	1点
18	六十六国漫遊記	"	15枚	45	七福神之図	"	1 "
19	美濃国漫遊絵日記	"	3冊	46	高山彦九郎之図	"	1 "
20	蓑虫携帶遺品	遺品	4点	47	百福之図	"	1 "
21	木曾川風景之図	条幅	1 "	48	股くぐり之図	"	1 "
22	長良志段見磐舟之図	横物	1 "	49	宝玉大黒之図	"	1 "
23	長良雄総護国之寺之景	"	1 "	50	達磨之図	"	1 "
24	揖斐春日谷大滝風景之図	"	1 "	51	五劫思惟弥陀之図	"	1 "
25	養老借楽社観月之図	"	1 "	52	旭光照波之図	"	1 "
26	養老公園千歳楼之図	"	1 "	53	大黒之図	"	1 "
27	長良百々峰之図	条幅	1 "				
28	美濃十二景之図	屏風	六曲一双				
29	美濃十二景之図	"	"				
30	山水屏風	"	二曲二双				
31	仙人遊興之図	襖絵	4枚				

※会期中の展示換え
 No.32~41 10月17日~11月3日
 No.44~53 11月6日~11月16日

資料出品者 (敬称略・アイウ順)

青木一郎	岡田弘	長母寺	不退寺
浅野清	某氏	桃林寺	不破成隆
安藤治作	加納文雄	戸田政春	堀場栄一
安藤直太郎	神野豊	長井永三	堀場涼
石田鎌一	郷市治	野々垣隆男	松野広平
池田文夫	清水義之	樋口光一	吉岡太郎
円城寺	専養寺	藤井和郎	吉田正男
大喜多秀	高橋順吉	藤井初男	

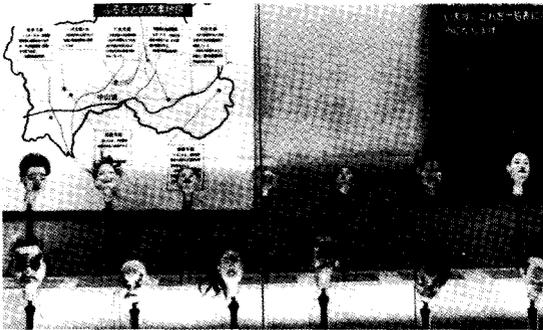
5. 資料紹介

(1) よみがえる葉津文楽 12月16日～2月1日

江戸時代後期に隆盛した人形浄瑠璃は、各地に資料は残ってはいるが、今回加茂郡七宗町神淵の葉津地区で発見された「首」と「衣裳」や「小道具類」の寄託を受けたので、この機会に細部にわたって再調査し、その資料を紹介したのである。

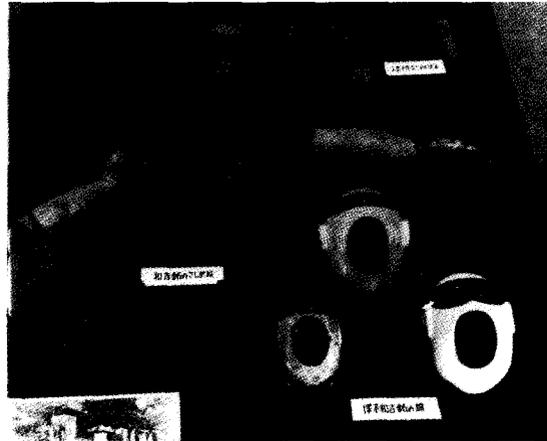
展示は、本館特別展示室のコーナーを生かし、三つの柱とした。

第一のコーナーは、人形浄瑠璃の基本的なことを興味をもって学べるように、三番叟のあいさつにはじまり、この資料が保管され発見された春日神社の「御宝倉新築概要」と、この地に残っている浄瑠璃本、及び首の種類・人形の構造・小道具類を展示した。



特に注目されたのは、人形の首を造った人が、享和5年(1730)から文政2年(1818)まで生きた地元の庄屋塚本和吉だったことである。首の内側に墨書銘が記されているものがある。「安永二己十月 葉津塚本和吉作」にはじまり「文政二年卯夏塚本和吉俱続(花押)八十九歳二而作之」まであり、和吉の亡くなったのはその年の10月で、生涯を通じて葉津の文楽を支えた人であったことがしのばれたのである。首の内側の墨書銘の他に「和吉」と銘のあるサシガネ。調査を進める中で発見された薄板のだ円形や台形をした定木なども展示できた。在地の者が制作した例が珍らしいだけに反響は大きかった。

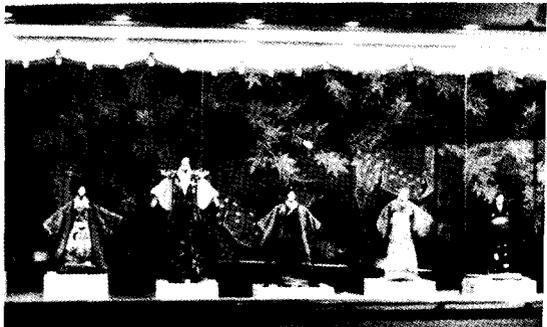
第二のコーナーでは、本館で拵えた人形14体と、その背景には2頭の鹿が色づいた紅葉の大木の下でたたずむ図柄が藍の素地にあざやかに染められた本幕をかけ、第三のコーナーでは、衣裳を展示した。



役柄によってつくられた衣裳は、絹・木綿を素材とし、太夫を思わせる金欄の打掛をはじめとして、小紋・花紋・格子柄の布地が、小袖・振袖・袴などに仕立てられ趣のあるものであった。

地元の教育委員会及び神淵の方々にはお世話になった。期間中大雪の日もあり、入館者が無いのではないかと思われた日に、神淵出身の二家族が逢われ、なつかしげに話し合いをされたり、拵え人形の前で長時間座りこんでおられたお年寄り。最終日に東京からかけつけてくださった人形研究家の団体の方々など、熱意ある来館者が多かった。最後に、よせられた便りの中に短歌があったので紹介しておきたい。

- じょうりりの博物館に流れをり
黒子もなきに木偶動くかに
- 隠り寝てやしろの倉にいくとせか
今ぞ目を剝く葉津の文楽
- 喜怒哀楽秘めもつ木偶の居ならびつ
よみがえりたり博物館に
- 涙拭きたのしみたらんわが父祖ら
葉津文楽の遠き世の頭つ



(2) 百年公園の動植物

3月1日～31日

百年公園は岐阜県が設置されてから100年を迎えた記念事業で建設されたものである。

公園の面積は、100ヘクタールに及びサイクリングロード・しょうぶ園・児童園・芝生広場等の

いろいろな施設がある。

岐阜県博物館もこの公園内の一つの施設として一角をなしている。

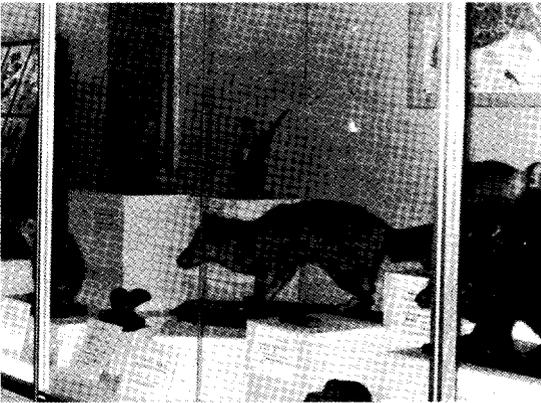
この公園は、海拔100メートル前後で小さな谷・湿地・池・起伏に富んだ丘陵地で、そこには森林をはじめ各種の動植物が生息し、自然の姿そのものの生物標本が見られるところである。



すばらしい動植物があり、四季折々多様な生物の生活があることを実物標本・写真・図表

等、当館収蔵の資料を使って紹介した。

この当館収蔵の展示資料は、当館職員が年間を通じて採集し整理したものである。



アカマツ林内を特色づけるツツジのなかまの数々、谷筋の湿地を飾る湿地性植物、落葉広葉樹林のつくりや木陰のシダ類、春を告げるギフチョウから夏秋の昆虫のいろいろ、ホンドリスやホンドテンなどの小動物やは虫類の液浸標本などを展示資料として利用した。

公園内での採集整理した標本数は、約4千数百点であるが会場の都合により全てを紹介することはできなかつた。

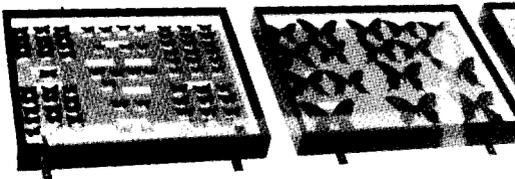
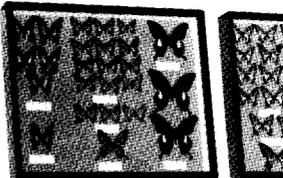
なお、今後は、多足類、クモ類、両生類、環形・線形動物、軟体動物など採集調査をし、公園内の総合的生物相のまとめをしたいと考えるところである。



出品点数

○植物標本	150点
○獣類剥製標本	10点
○鳥類剥製標本	50点
○は虫類液浸標本	10点
○昆虫標本	3,057点

チョウのなかま 蝶類



6. 資料調査収集活動

(1) 人文部門

	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	その他	(寄贈物)			
考 古	476	66	7	(449)	315	337	1,201
歴 史	487	9	185	(474)	119	10	810
民 俗	1,093	0	2	(1,093)	0	0	1,095
美術・工芸	61	13	37	(60)	143	655	909
その他	2	4	4	(2)	0	0	10
計	2,119	92	235	(2,078)	577	1,002	4,025

複製には模型・ジオラマを含む（昭和56年3月31日現在）

1. 資料寄贈者芳名一覧

（敬称略・順不同）

資料名	点数	芳名
淡墨桜屏風	1 双	山田 大作
旗ざし・軍扇ほか	4 点	岡田 兼次 岡田 富尾
薙刀 銘平安城住則定	1 口	山田 研山
田舟ほか	5 点	酒井 馨

2. 実物資料の購入

布目瓦（岐阜市柄山出土）	2 口
飛驒小絵図（江戸時代17世紀末作成）	1 点
藩札（大垣・加納・高富・今尾・池田）	13 点

3. 複製資料の製作

銅鐸（弥生時代、岐阜市梅林出土）	1 点
絹本着色斎藤道三画像	1 幅
木造広目天立像	1 軀

館蔵資料紹介

●木造広目天立像（像高84cm）

当館の仏像の複製計画は、仏像の形態によって代表的なものを製作することとしているが、本年度には四天王像の一軀を製作した。

本資料の原像は岐阜市粟野の済法寺に祀られ、昭和41年県重要文化財に指定された。

桧材の寄木造で玉眼が入っている本像は、甲冑に身を固め、右手に筆、左手に卷子を持ち、邪鬼を踏みつけ、眼元や口元に見える忿怒の厳しい形相など、他の何物も近づけない迫力を漲らせている。

写実的な表現をみせる鎌倉時代末期の典型的な彫刻である。



●絹本着色斎藤道三画像（縦96.9cm、横45.8cm）

岐阜県の歴史の中で現在もおおよく知られている人物の一人に、斎藤道三がいる。言うまでもなく道三は、「主をぎり髯を殺すは身の終わり、昔は長田今は山城」と落首に歌われ、坊主から身をお



こして美濃を手中に入れ、下剋上を成した男という。

しかし最近の研究から、父親が坊主から美濃の守護家の執権長井氏と同族にまでなっていたこと、道三はその跡を継いで下剋上を成していったこと、守護を追放したものの僅か4年でその座を追われたことなどが明らかになった。道三が長井新

九郎規秀という名で確かな史料に姿を現すのは、1533年のことで、後に守護土岐頼芸を追放するものの1556年には国内統治者としての資格がないと判定され、道三は悲惨な最後を遂げたのである。

本資料の原像は、道三ゆかりの岐阜市梶川町の常在寺所蔵のもので、道三の娘濃姫（織田信長北の方）が寄進したものと言われる。昭和50年国重要文化財に指定されている。

本資料の中央には「南無妙法蓮華経」の名号が下段の右に「弘治第二太歳丙辰四月廿日」と没年月日が記され、さらに左側に「過去城陽太守道三居士」と銘記されている。道三像は、上畳に端座した姿を丹念に描かれ、風貌は冷静沈着で重厚な面影があり、殊に眼光の鋭さに精悍な性格が感じられ、戦国時代の武将の気迫がよく現れている。

●藩札

江戸時代中期以降諸大名たちは、商品経済の浸透による領主財政の窮乏をしのぐため、藩札を発行した。中でも幕末になると各藩が藩札を乱発したため、経済混乱をもたらしがちであった。岐阜県の場合大垣・加納・高富などの諸藩が藩札を発行したが、本年度実物購入資料として、以下に紹介する12点を購入することができた。

(ア) 大垣藩札 (1点)

購入資料は元文2年(1737)大垣銀札所発行の銀1匁札である。大垣藩は延宝8年(1680)日本で5番目に早く発行を始め、元文2年には9種類

の銀札を発行した。

(イ) 加納藩札 (3点)

加納藩領内の産業として棧留織物業と製傘業が起り、当地方の需要に応ずるのみでなく遠く江戸・上方にも売り出され、岐阜・加納の商人が莫大な利益を得た。そこで藩は安政6年(1859)その販売の統制と資金の融通を企て、傘問屋・産物会所に傘1本札(銀2匁)・傘2本札(銀4匁)・轆轤2個札(銀2分)・轆轤3個札(銀3分)・総糸目方15匁札(銀1匁)の5種類を、23万枚余り発行させた。本年度購入資料は、傘1本札・轆轤2個札・轆轤3個札、各1点ずつである。

(ウ) 高富藩札 (3点)

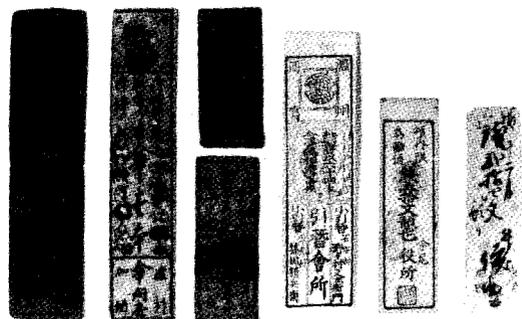
高富藩札は、天保15年(1844)京都の豪商近江屋に御蔵米や村方作徳米の売買を円滑にするために発行させたことに始る。慶応2年(1866)大庄屋を勤める芥見村篠田・石谷村野々村を引替所にして、銀3分札・銀1匁札・銀2匁札を発行した。これらの各1点ずつを購入したことになる。

(エ) 今尾藩札 (2点)

今尾藩は尾張徳川氏の附家老竹腰氏3万石である。ここでは銭50文札が今尾役所から、釣銭48文札が今尾高持中から発行された。この各1点ずつを購入した。

(オ) 私札 (3点)

商業活動が活発になると在地の有力商人が私札を発行した。尾張から信濃に通じる下街道の宿駅として栄えた可児郡池田村(現多治見市)では銭24文札・銭48文札が発行された。また厚見郡領下村(現岐阜市)では棧留縞を取り仕切っていた吉屋が銀3匁7分5厘札を発行した。



左から、大垣藩札・加納藩札・高富藩札・今尾藩札・池田私札

(2) 自然部門

	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	移管、自作 その他	寄 贈 (内数)			
動 物	14,663	41	173	(6,873)	15	0	14,892
植 物	2,278	25	168	(1,551)	0	0	2,471
岩石・鉱物	1,112	5	62	(371)	20	3	1,202
化 石	1,327	34	17	(801)	48	19	1,445
その他	46	22	133	(4)	0	0	201
計	19,426	127	553	(9,600)	83	22	20,211

複製には模型・ジオラマを含む(昭和56年3月31日現在)

1. 寄贈者芳名一覧

(敬称略・順不同)

資 料 名	点数	芳 名
三葉虫	3	土岐 駿
デスマスチルスの白菌など	10	西澤 勇
巻貝化石	1	堀 雅一
玉髄など	37	益富寿之助
四射サンゴなど	5	竹中 直幸
腕足類化石など	3	泊 正武
オウムガイ化石	1	井上 潤
スズメバチの巣	1	小林 勇
ホタルイカ、シラエビ液浸	各2	富山市科学文化センター
キョン剥製	1	岡田 光男
オオサンショウウオへい死体	1	熊田 国男
ホンドイタチ、モグラのへい死体	各1	宮崎 惇
アユの食み跡のついた石	1	"
アツカサガイなど	19	"
柴 犬(メス)へい死体	1	伊東 祐朔

ヤマカガシ(幼)へい死体	1	小沢 正之
モクズガニ生体	1	清水 一彦
アカエリヒレアシギなどへい死体	3	丹羽 宏
キンランチョウ剥製	1	高島 利次
海産貝類乾燥標本	180	後藤 常明
モズ、キジバト剥製	各1	後藤 寛
ヒヨドリへい死体	1	後藤 浩二
ニホンドブネズミのへい死体	1	芥子川知祥
		谷口 義昭
		辻 麗

2. 実物資料の購入

資 料 名	点数
コミミズク 剥製	1
コジュケイ 剥製	1
ハシボソカラス 剥製	1
ヤマシギ 剥製	1
アナグマ 剥製	1



タヌキ 剝製	1
コサギ 剝製	1
イノシシ 剝製	1
ムササビ 剝製	1
リス 剝製	1
アオバト 剝製	1
ニホンツキノワグマ 剝製(雄4才)	1
黄銅 鋳	1
緑柱 石	1
石英(群 晶)	1
黄鉄 鋳	1
方鉛 鋳	1
方解 石	1
電気 石	1
正長 石	1
アラレ 石	1
灰バンザクロ石	1
鉄バンザクロ石	1
三葉虫 化石	1
アンモナイト 化石	1
サメの歯 化石	1
四射サンゴ 化石	1
腕足類 化石	1

3. 化石資料の収集

吉城郡上宝村一重ヶ根地域に分布するシルル・デボン紀層中の動物化石を中心に収集作業を行った。この地域は近年甲冑魚やシルル紀の三葉虫など重要な化石がみつかっている。こうしたところでは多くの化石ハンターにより産地の荒廃が急速に進んできた。このため早急に県産資料という面から収集しておく必要があった。

収集指導講師の都合によって11月中旬という現地の初冬期に実施し降雪のおそれもあったが、幸い好天に恵まれて三葉虫や腕足類など重要な化石を収集することができた。以下おもな収集資料をあげる。

腕足類化石	16点
四射サンゴ化石	3点
三葉虫化石	13点
ハチノスサンゴ化石	4点
日石サンゴ化石	2点

その他サンゴ化石	3点
層孔虫化石	2点

4. 常設展展示構成充実準備調査

自然展示室Ⅰ、Ⅱ各室の常設展示内容を、最新の調査研究成果を反映したものにし、展示資料の質的・量的な充実を期すために、先年度に引続いて現地調査、資料収集、写真撮影等の準備調査を実施した。本年度は地域を御岳山周辺部に焦点化し、各分野とも下記のような成果を得た。

植物分野……百年公園及び御岳山周辺部の植物標本の収集及び特殊植生の景観写真撮影及び植物生態写真の撮影、植物社会の生態調査

動物分野……百年公園及び御岳山周辺部の昆虫標本の収集及び生態調査

地学分野……大野郡荘川村御母衣湖東岸地域の濃飛流紋岩類中の苦鉄質火山岩に関する資料収集と調査
大野郡高根村・朝日村・益田郡小坂町地域の御岳火山噴出物の資料収集と調査



7. 教育普及活動

(1) 概 略

館の運営、事業内容を広く県民に周知をはかるため広報活動を一段ときめ細かく展開した。それは県立博物館とはいえ、まず館の立地している関市をはじめ中濃・岐阜地区に対して重点的に行う必要性を認め、地元の小中高校に対し、各種行事の広報紙を配布した。また10月22日には美濃教育事務所管轄の新採用教員研修(小中学校)を館内で実施するとともに一つの展示コーナーを例として授業における博物館利用の事例を提示した。このほか新聞・ラジオ・テレビ等を利用して、特別展示・教育普及の各種行事・新寄託品を紹介した。主な番組名は「くらしと学習」(GBS-TV)、「県政ロビー」(GBSラジオ)である。県関係の広報紙では「くらしと県政」「くらしと学習」「教育広報」を活用した。

教育普及事業は前年度の5回から9回と回数を増やすとともに、新たに館外行事として人文移動教室を開催するなどバラエティーさも増した。

刊行物は今年度特に資料紹介のポスターとリーフレットを作成し、観覧者の参考とした。

(2) 博物館実習生の受け入れ

大学の博物館学講座の一環として行われる博物館実習を当館においても受け入れてきた。実習は1名の担当学芸員が作成した日程にしたがって各学芸員が協力して実施する。指導内容は岐阜県博物館を例として、①施設の概要説明、②博物館活動の現状説明、③資料の取扱い・調書作成、及び写真撮影などの実習、④企画展の構想に関するレポート提出などである。



大学・学科	学年	期 間
金沢大学地学科	4年	8月4日～14日
金沢美術工芸大学油絵科	4年	8月4日～14日

(3) 教育普及事業

① 映画会

期 間	題 名	観覧者数
第1期 (4月27日～6月8日の日曜・祝日)	美しき郷土、伸びゆく郷土、輪中、宝曆治水と平田鞆負〔スライド〕	2,440
第2期 (7月27日～9月7日の日曜日)	あゆ、雷鳥、刀匠、白川郷、美しい国土の生い立ち、野尻湖の発掘	1,339
第3期 (10月19日～11月16日の日曜・祝日)	国宝の旅立ち、雷鳥、蓑虫山人〔スライド〕、博物館で働く人たち〔スライド〕	1,915
第4期 (3月1日～29日の日曜・祝日)	百年公園の植物〔スライド〕、百年公園の野鳥〔スライド〕、あまごの里、白山信仰、ライチョウ、関ヶ原と伊吹	753

② 各種行事

月 日	区 分	テ ー マ	講 師	対 象	参加人員	教 材	備 考
5月5日	講 演 会	宝暦治水と薩摩義士	海津町長 伊藤光好	一般	103	—	
5月18日	人文移動教室	宝暦治水の史跡めぐり	当館学芸員 鈴木・水野	一般	53	テキスト B5・10頁	千本松原・ 円城寺など
7月27日	自然観察会	百年公園の虫	堀義宏ほか 当館学芸員	小3～中3	37	採集用具	父兄参加者 8人
8月17日	講 演 会	化石と私たちの生活	京都大学教授 亀井節夫	中学生以上	117	スライド	
8月24日	同 定 会	標本の名前を調べる会	井波・雄・堀義宏 ほか当館学芸員	—	31	—	“化石”の参 加者多し
9月28日	自 然 教 室	飛騨片麻岩は日本列島 の基盤か	日本地質学会 副会長 野沢保	高校生以上	40	テキスト B5・10頁	
10月19日	体験学習会	昔のてまりづくり	武藤りつえ 米津為一郎	小4～中3	31	テキスト B5・2頁	父兄参加者 14人
11月9日	"	たこづくり	大平真澄	小4～中3	38	テキスト B5・6頁	父兄参加者 8人
3月8日	自 然 教 室	御岳山の植物	当館学芸員 小野木三郎	小3～中3	38	スライド テキスト B5・4頁	

(4) 刊行物

年度	名 称	発行年月日	版・頁	部 数	備 考
昭和 51 年 度	岐阜県博物館だより 第1号	51. 7. 15	B5・4頁	2,000	
	" 第2号	52. 3. 25	"	2,000	
	岐阜県博物館展示資料目録	51. 5. 5	B5・64頁	1,000	
	特別展リーフ ふるさとの文楽	51. 8. 1	A5・6頁	12,000	
	" 熊谷守一	51. 11. 1	B5・4頁	8,000	
昭和 52 年 度	特別展図録 熊谷守一	51. 11. 1	B5・16頁	400	カラー写真1枚貼付
	特別展ポスター ふるさとの文楽	51. 7. 20	B2	800	
	" 熊谷守一	51. 10. 25	B2	800	多色刷
	岐阜県博物館だより 第3号	52. 6. 15	B5・4頁	2,000	
	" 第4号	53. 1. 1	"	2,000	
昭和 53 年 度	展示案内	53. 3. 23	A5・32頁	18,000	
	特別展リーフ 日本伝統工芸秀作展	52. 5. 3	A5・4頁	7,000	
	" 郷土の化石	52. 7. 21	A5・16頁	12,000	
	" 鉄斎	52. 10. 28	B5・6頁	10,000	
	特別展図録 鉄斎	52. 10. 28	B5・34頁	300	カラー3頁
昭和 53 年 度	特別展ポスター 日本伝統工芸秀作展	52. 4. 15	B3	1,000	多色刷
	" 郷土の化石	52. 6. 15	B3	1,000	
	" 鉄斎	52. 9. 22	B2	1,000	多色刷
	岐阜県博物館だより 第5号	53. 4. 1	B5・4頁	2,000	
" 第6号	53. 9. 1	"	2,000		
" 第7号	54. 1. 1	"	2,000		
岐阜県博物館報 第1号	53. 12. 20	B5・48頁	1,500		

年度	名 称	発行年月日	版・頁	部 数	備 考
昭和 53 年 度 (続)	特別展リーフ 濃飛の甲冑	53. 4. 28	B 5・4 頁	8,000	
	" 世界のコガネムシ	53. 7. 21	B 5・8 頁	15,000	
	" 能面と装束	53. 10. 21	B 5・4 頁	7,000	
	特別展図録 濃飛の甲冑	53. 4. 28	B 5・16 頁	400	カラー1 頁
	" 能面と装束	53. 10. 20	"	400	カラー写真1 枚貼付
	特別展ポスター 濃飛の甲冑	53. 4. 8	B 2	2,000	多色刷
" 世界のコガネムシ	53. 6. 20	B 3	2,000	"	
" 能面と装束	53. 9. 20	B 2	2,000	"	
昭和 54 年 度	岐阜県博物館だより 第8号	54. 4. 1	B 5・4 頁	2,000	
	" 第9号	54. 7. 1	"	2,000	
	" 第10号	55. 1. 1	"	2,000	
	岐阜県博物館報 第2号	54. 7. 1	B 5・24 頁	1,500	
	岐阜県博物館調査研究報告 第1号	55. 3. 1	B 5・96 頁	1,000	
	展示案内	54. 9. 23	A 5・32 頁	10,000	
	昭和55年度岐阜県博物館催し物案内	55. 3. 25	B 4	10,000	
	特別展リーフ 濃飛の先史時代	54. 4. 27	B 5・4 頁	22,000	
	" 世界の貝	54. 7. 21	B 5・12 頁	22,000	
	" 濃飛の文人	54. 10. 12	B 5・4 頁	20,000	
特別展図録 濃飛の先史時代	54. 4. 27	B 5・20 頁	500		
" 濃飛の文人	54. 10. 12	B 5・32 頁	400		
特別展ポスター 濃飛の先史時代	54. 4. 14	B 2	2,000	多色刷	
" 世界の貝	54. 6. 22	B 2	2,000		
" 濃飛の文人	54. 9. 8	B 2	2,000		
昭和 55 年 度	岐阜県博物館だより 第11号	55. 4. 1	B 5・4 頁	2,300	
	" 第12号	55. 7. 1	"	2,000	
	" 第13号	56. 1. 1	"	2,000	
	岐阜県博物館報 第3号	55. 7. 1	B 5・24 頁	1,500	
	岐阜県博物館調査研究報告 第2号	56. 3. 31	B 5・88 頁	1,300	
	昭和56年度岐阜県博物館催し物案内	56. 3. 26	B 4	15,000	
	特別展リーフ 宝暦治水と薩摩藩	55. 4. 24	B 5・4 頁	25,000	
	" 化石の世界	55. 7. 22	A 5・16 頁	19,000	
	" 養虫山人	55. 10. 17	B 5・4 頁	20,000	
	特別展図録 宝暦治水と薩摩藩	55. 4. 24	B 5・52 頁	600	カラー4 頁
	" 養虫山人	55. 10. 17	B 5・28 頁	400	
	特別展ポスター 宝暦治水と薩摩藩	55. 4. 5	B 2	2,500	多色刷
" 化石の世界	55. 6. 23	B 2	2,000		
" 養虫山人	55. 9. 8	B 2	2,000		
資料紹介リーフ よみがえる葉津文楽	55. 12. 16		3,500	体裁一記念ハガキ付	
" 百年公園の動植物	56. 3. 1	B 6・8 頁	7,000		
資料紹介ポスター よみがえる葉津文楽	55. 11. 21	B 3	1,500		
" 百年公園の動植物	55. 12. 16	B 3	2,000		